

後 記

或る幼稚園の先生が云うには、「私の部屋には大きな箱積木もないし、ま、ごとをしようにも落着いた部屋の隅もないし、製作するにも材料費が足りないし、困ってしまいます。子どもが落着いて遊んでくれないの。遊び道具もなくて遊べと云ったって無理だけどね」他の先生がたづねて、「何人子どもを受けもっていらっしやるの」「三十人」「それぢやぜいたく云えないわ。私の組は五十人子どもがいて、部屋には庭に通ずる出口もないし、子どもが庭に出ていると何をしているんだか分らなくて、子どもを管理するのに一苦労。幼稚園をするには、教育に適當な環境から作っていかねければね」そうすると、もう一人の先生が云う、「あなた方の苦勞はまだいゝわ。私の幼稚園は子どもが六百人いて、一部屋九坪に九十人づつ。子どもがぎっしり席につくと、蟻のはい出るすきまもなく、一寸も動けません。」

その十分の一、二十分の一も実現できないのは、実に悲しい。すぐれた教育者として幼稚園の先生に、思う存分、力を発揮させてくれるように、現実の条件がもつと何とかならないものだろうか。勿論多少の環境的条件、部屋の構造とかその他の条件によって、いろいろ保育上工夫せねばならぬところもある。だが、何とかならなければ、保育ができないという場合もあろう。現在、日本の保育界の直面している大きな問題の一つである。本誌の先月号で長田新氏の力説しておられる如く、又八月号で牛島義友氏の指摘しておられる如く、此の面でもつと考慮され、改善されねばならぬ点は大い。

しかし、いかなる条件にもあれ、毎日やってくるひとりひとりの子どもに罪はない。その時与えられる最善のものを与え、何とか伸び伸びとした楽しい生活、力一ばい充実した生活を作ってゆきたい。

今月号に所載のものは、お茶の水女子大学において例年行なわれる幼稚園小学校の教育実践指導研究会において、本年六月の会で発表され協議されたものである。

幼児の教育 第五十四巻 第十一号

定価金五十円

昭和三十年十月二十五日印刷

昭和三十一年十一月一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購讀についての御注文は発売所
フレーベル館にお願い致します。